第 2011-07 号

恵みと真理のニュース

2011 年 11 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　旦那を救って下さり感謝します。

私は不信仰の家庭で生まれ育ちました。1980年結婚して、1989年ある執事さんに伝道されました。その人は自分の信仰の証を言いながら、私にイエス様を信じなさいと切に勧めてきました。その執事さんの話は、“私の家庭も旦那の家庭もみんな神様を信じていない家庭だったので、このままだったらみんな地獄に行くしかなかったかも知れません。しかし、今はイエス様を信じて救われました。病気も癒され元気で楽しく暮しています。”本気で伝える執事さんの証を聞いて、私の心が開かれました。そして一緒に教会に行って、イエス様を受け入れました。私は旦那にも一緒に教会に行くことを勧めましたが旦那は行きたくないと言っていたので、一人で教会へ通いました。毎週主日に教会で礼拝を捧げながら旦那も一緒に通えるように祈りました。
1992年、平村(韓国の地名)へ引っ越ししました。それから恵みと真理教会へ通うことになりました。そのごろ、私の家庭は経済的にとても大変な状況におかれていました。旦那が働いていましたが、生活費を持って来てない日もとても多かったです。生活費や大きくなっている子どもに使うお金が増えているのに、収入は少ないから生活はとても大変きついでした。そんな生活の中でも私はもっと神様に近づくことを決心しました。そして、神様の助けを求めながら切に祈りました。『だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて與えられます。』(マタイ6:33)御言葉に頼って、私たちに必要な全てを満たして下さることを期待しながら、頑張って伝道もしました。一回は、金曜祈り会に行って来たら、鍵が閉ってありました。旦那がドアを閉めて開けてくれなかったのです。“子どもを育てるお母さんが昼にでるのはいいけど、夜中こんな遅い時間まで教会に行くのは許せないから、出ていけ。”と旦那が言いました。私はこれから金曜祈り会に行かないことを約束した後に、家に入ることができました。しかし、私は祈らなければならないと思ったので、代わりに早天礼拝に行けるようにしてほしいと頼んで、やっと旦那に許可を得ることができました。その後、私は早天礼拝に参加しながら旦那を救って下さるように、また家庭の経済が豊かに回復出来るよう切に祈りました。ある日、生活費が足りなくて大変苦しい時期を過ごしているときのことです。祈っている中に、期待もしなかった父親からの助けで危機を越えることができました。
神様の中にいる救いの喜びと平安を知らない旦那がいつもかわいそうでした。2008年、旦那の健康に異常が見つかりました。下痢と吐気が頻繁にあって病院に行ったら胃ガンでした。全然思いもしなかったことが起きて驚いた旦那は総合病院に行って精密検査を受けましたが、やっぱり胃ガンでした。医者は一日でも早く手術をして、五回にわたる抗癌治療を受けなければならないと言っていました。2008年12月15日、旦那は胃ガン手術を受けて抗癌治療を始めました。
私は再び旦那を伝道し始めました。旦那のかたい心が開き、イエス様を信じますと決心しました。それで、2009年2月1日、旦那は初めて教会に行きました。危機の前で神様に頼ることをしっかり決心しました。その後、神様は旦那を助けて下さいました。五回受けるつもりだった抗癌治療は二回で無事に終わりました。二回の抗癌治療後血液検査をしましたが、ガンの数値も正常に戻って血液もきれいになりました。その以上の抗癌治療は受けなくても良い状態になりました。それで、旦那の胃ガンが完治されて正常的に職場へ通うことができました。
しかし、旦那がガン闘病中、働くことができなかったので家庭は経済的にもっと貧しくなり大変でした。私は神様だけに頼って、御前に進んでいきました。いつも私たちと共にしながら助けてくださって癒して下さるお方、面倒みて下さる良き主であることを確信しながら必要なものを求めました。神様は私たちの祈りを聞いて下さって、周りの人たちを通して助けの手を施して下さいました。
2010年ある日のことです。作家になる夢をもっている息子は働きながら、家に帰って夜遅まで作文を書きました。ある日、目が痛くて開けることもできないと息子が言ってきました。子どもの頃、ひがめ矯正のため手術を受けたから目の健康に問題ができたんじゃないかと心配でした。病院に行ってみたら、ヘルベスウイルスにかかっていることがわかりました。そのウイルスは体のどこにでもかかることができるもので、息子の場合は目が弱いから目にひっかかたようでした。幸なことに、視力と関わる大きな問題ではなかったから感謝しました。息子は会社をやめて治療に全力を尽くしたので、何日後完治されました。感謝することはその後のことで、もっと良い条件の会社に就職することができました。このような過程を通して神様は私たちの家庭を救って下さり経済的にも豊かに満たして下さいました。
旦那がガンに判定された後、焦心しながら大変な時間を過ごしてきました。しかし、顧みると、その時間を通して旦那が神様を受け入れ救われたから、とても嬉しく感謝しています。すべてのことを成し遂げられた神様に賛美と栄光を捧げます。アーメン

［信仰コラム］　子狐を捕らえよ。（つぶやきと不平）

“　ぶどう畑を荒らす狐や子狐を捕えておくれ。彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならって滅ぼす者に滅ぼされました。”（雅歌2:15、コリント人への第一の手紙10:10~11）

人々は家の戸締まりをしっかりしています。しかし、心の戸締まりはおろそかにする傾向があります。心に有害で破壊的な考えが入ってきても許します。さらに、長い間留まり、主人のふりをしても許します。実は、心の戸締まりをおろそかにすることによっておきる損傷と被害は、戸締まりをおろそかにしておきることと比べられないぐらい深刻だと言えます。なので、“つぶやきと不平を治める道”について考えてみます。
まず、人がつぶやいて、不平する理由を分析します。第一、つぶやきと不平は欲求不満から始まります。人の欲求は切りがなく、このような欲求を適切に切除できないとつぶやきと不平が終わらないのです。第二、物を観察するときに否定的な面だけを見るから起きます。第三、理解することが足りないとおきます。人はだいたい自己中心的なので、他の人のことを考えて、理解しようとする心が足りないです。第四、当面な苦境についてその原因も確認せず、その責任を人のせいにするからおきます。その次に恨みと不平がもたらす悪い結果について考えてみます。第一、つぶやきと不平は混乱な状況をもっと悪化します。イスラエルの民たちが荒野で不平し恨んだ結果が、それを指しています。第二、否定的で悲観的な精神状態を悪化させて、悪い人格になります。第三、肉体の健康をそこない病気を悪化させます。自分が打ち上げた恨みと不平の矢は、時間が経つと自分に戻って来ます。結局、害を被ることになります。
第四、周りにいる良い人たちが離れ去って、悪い人たちがが近づいて来ます。それは、同じ性向の人たちが集まるので、恨みと不平をする人たちが集まって互いが恨みや不平を拡大し、それを再生産します。第五、神様を寂しくさせます。イスラエルの民たちが荒野で生活しているとき、食べ物が切れました。それで彼らは、モーセとアロンを恨み始めました。それで主はモーセに“わたしがイスラエルの子孫たちの不平を聞いた。”とおっしゃいました。そして不平をしている民たちへの憐れむ気持を表しました。第六、神様を怒らすことです。エジプトから出たイスラエルの民たちの多数はカナンに入りませんでした。結局、荒野で死んだ一つの理由は神様を恨みを出したからです。最後に、恨みと不平を治めるための道について考えてみます。第一、不満を挑戦と発展の機会だと思うべきです。創造的なエネルギーへ転換することです。第二、現在よりも大変だった時期を覚えることです。第三、すべての物に肯定的な意味を与えるべきです。神様は自分たちがいなごみたいだと民たちに意味を与えみんなが神様とモーセを恨むようにして、十人の探りの人を殺しました。しかし、カナンに住んでいる全ての者は、神様が陰膳を据えたことと同じ意味だと思っていたヨシュアとカレブを使わしてその地を攻め取るようにしました。第四、欠乏と混乱のため、苦境に直面したとき、神様が供給してくださることとその助けを期待しながら神様に事前感謝をし、後はもうもらっている恵みを数えながら感謝すべきです。第五、“しかし”と“結局”この二つの単語を使うこともすばらしい方策です。“しかし、私には何かがあります。”、“結局、神様が助けて益として下さいます。”、“世の中で混乱に直面していても結局、その混乱は副になります。”このように言える人はいつも感謝して生きて行くことができます。
神様につぶやいて不平することは、一番悲劇的な結果をうみます。人間関係の中でもつぶやきと不平が多い人は自ら自分の居所をなくしてしまいます。恨みと不平は子狐と似ているから、人々がどんでもないことだと考えやすいです。しかし、その破壊力はとても深刻です。生活であるぶどう畑を荒廃化します。みなさんは、つぶやきと不平を治めることに有能な聖徒になりますよう、お願い致します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

とても驚くべきに変化された人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：コリント2　5章17節

福音を単純に説明して〈神様が罪人を愛した恋物語〉と言うように基督教人を単純に説明すれば〈とても驚くべきに変化された人〉と言えます。
誰でもイエス·キリストを信じればとても驚くべきな変化を経験するようになります。その変化と言うのは非宗教人が宗教人になるという意味ではありません。品性や行動の変化はもちろん人間自らの努力では成すことができない不思議でおびただしい変化が起きることを言います。クリスチャンだと言いながら自分にどんな変化が起きたのかを分からなかったら、その人は形式的なクリスチャンで真のクリスチャンではない可能性が高いです。皆さんが全く基督教人であるなら自分に起きた変化に対して明らかに話せなければなりません。そして、その変化に対して話すのを喜ぶべきです。
今日、私は基督教人が経験すること、基督教人には必ず現われる変化に関して申し上げようと思います。

第一、本質的な変化です。

ここで言う本質と言うのは神様を向けた一人一人の霊的な状態と身分を意味します。
初人間アダムは神様の形と模様どおり創造されて罪がない状態でした。ところでアダムはサタンの誘惑に負けて神様の命令を逆って不服して犯罪者になりました。
そしてアダムの子孫たちはその本質と身分が罪人、悪魔の子、地獄子になってしまいました。
そして神様の怒りを受けた者になりました。
聖書には〈生まれながら神の怒りを受けるべき者〉(エフェソ2:3) と書いてあります。
本質の変化は人間の努力と行為では全然不可能です。
ところで神様が一つ解決策をくださいました『**だれでも、キリストと結ばれる人は新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。**』ここにその解決策が啓示されてあります。
＜だれでも＞と言うのは差別のない意味です。
＜キリストと結ばれる人は＞と言うのは条件を意味しますが、分かりやすく言えばキリストを信じて従うのを示します。
ここに使われた〈新しい〉という用語は時間的、質的にも完全に新しいことで以前にはなかったことを意味します。
＜新しく創造された者＞とは新たに変化された人を言うのです。基督教人はこれからは以前の人間ではありません。新たの命を受け蘇える、とても新しい人間です。キリストと結ばれればこのように存在の本質が変化されます。
本質の変化を具体的に分けて申し上げます。
罪人が正しい者になる身分の変化です。
ローマ５章１８節１９節には
『**そこで、一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。**
一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。』とおっしゃいました。
それだけではなく地獄の子から天国市民に、天国民になる身分の変化です。
フィリピ３章２０節には『**しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス.キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。**』とおっしゃいました。
ヨハネ黙示録２１章１、４節には『わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。
そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。『**見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。**』とおっしゃいました。
地獄の子が天国市民、天国民に変化されたという事実を思えば、どれほど驚くべきで栄光なのか言葉では表現出来ません。
イエス·キリストを信じる人はこのように不思議で驚くべきで栄えの変化を受けた人です。
新しい被造物になった事実が、どれほど神秘で驚くべきなのか聖書本文には感嘆詞を連発しています。
イエス·キリストを〈信じる以前の人〉と〈信じた以後の人〉は完全に異となります。
クリスチャンと非クリスチャンの違いは何ですか。
教会に出席する、聖書を読む、賛美歌を歌って祈ることは表面的な違いです。
確かな違いは内面的なことで本質的なことです。クリスチャンと言うのは罪人が正しい者になって、悪魔の子が神の子になった。地獄の子が天国市民になる変化を受けたのを示す言葉です。
このような本質の変化、身分の変化を得るために私たちがすべきことはありません。イエス·キリストを信じて受け入れれば良いのです。そうすればイエス·キリストと結ばれて生きることができます。

第二、所属の変化です。

人は家庭、学校、職場、教会、国家などの複数の社会組織を作って、そこに属して生きてるようになりました。
人は肉的な人生のため所属されるのではありません。人は魂を持った霊的な存在です。だから霊的な所属がなければなりません。
人は独立的な存在ではないです。神に属して生きるように造られました。悪魔はこのような人を自分に隷属させるために誘惑の手を伸ばしました。
エバに近寄って偽りの舌を動かしたのです。
善悪を知る果実を食べれば神と同じようになるとささやきました。神様に隷属しないで独立的な存在になると誘惑したのです。
エバはついサタンの誘いに惑わされ夫アダムまで引き入れました。善悪を知る実を取って食べた彼らは神様のようになるどころかその日から罪の僕、サタンの僕になってしまいました。
悪魔は悪者です。世の中は悪者に属しています。神様を仕えない者は皆、悪い悪魔に属しています。
人は悪魔の支配を脱いでしまいたくても力不足です。悪魔は人より強い存在だからです。
それだけではなく、罪人は神様の怒りの支配にあり、神様と敵対の席にあるから神様に進むことができません。このような人生たちに驚くべきな朗報が与えられました。
神様に進む道が開かれたのです。
私たちの罪を代りに贖われるため独り子イエス·キリストを送って下さったのです。そして誰でもイエス·キリストを信じれば罪許されて神様と和解できる道が開かれました。
人は神様に属した者と悪魔に属した者に大別されます。中立ではありません。
世の中と言うのは偶像を仕えて神様を逆う人々の組職と共同体を意味します。
世の中は悪魔の支配を受けています。
だから悪魔に属した者、他の表現では世の中に属した者と呼びます。
世に属した者を世間のことが好きで愛するのは当たり前の理です。クリスチャンは神様の選びを受けてキリストに属した者だから世が憎むとイエス様自らおっしゃいました。
クリスチャンは自分の所属が変化された事実を明らかに認識しなければなりません。神様に属したという確かな所属意識は平安と胆大さを持つようにします。
ヨハネ一書４章４節には『**子たちよ、あなたがたは神に属しており、偽預言者たちに打ち勝ちました。なぜなら、あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです。**』とおっしゃいました。この世の者とはすぐに悪魔のことです。悪魔は人よりも賢くで、能力が優れています。
しかし、私たちの中におられる神様が、悪魔よりも偉大なお方です。そのお方は神様です。創造主でおられます。
"あなたがたは神様に属する者だ"といわれる言葉に注意してください。
あなたがたが困難な状況を会えたとき、"私は神に属している"と話してください。そうすれば、皆さんは平安が波のようにあふれ入ってくるようになります。
皆さんが悪い者、悪魔から善の神様へ所属が変化されることはイエス·キリストを信じる信仰によって出来ます。
イエス·キリストを信じる者は皆、キリストと結ばれています。キリストと結ばれている者ば魂が神様に属した者です。
皆さんの中でまだ信じない方は、ただちにイエス·キリストを信じて神様に属した者になるのを願い求めます。そして、愛する聖徒の皆さんは自分がキリストと結ばれて存在の本質が変化されてまた所属が変化された事実によって、幸せで嬉しい心で生きて行くのを祝福し祈ります。